

淑徳大学アーカイブズ・ニュース

vol.25

2022.7.7

目次

吉田久一先生旧蔵資料(淑徳大学アーカイブズ所蔵)	1
学祖に迫る その3 阿部志郎先生からみた学祖	2
～表紙の資料(写真)について～	2
アーカイブズの活動紹介	3
連続インタビュー 第3回 〈千藤 尚志さん〉	4
アーカイブズ力(りょく)をつける その3〈清水 邦俊〉	6
アーカイブズ事務室だより／ご協力のお願ひ／編集後記	8



学祖に迫る その3

阿部志郎先生からみた学祖

このコーナーでは、淑徳大学で1年生向けに行われた先生方の講演を順にご紹介しています。今回は、社会福祉の実践を長く続けてこられた阿部志郎先生(あべしろう、1926年(大正15年)／昭和元年生まれ。明治学院理事長、東京



学祖 長谷川 良信先生

女子大学理事長、日本社会福祉学会会長等をつとめる)の「福祉実践者としての長谷川良信—淑徳大学開学の頃—」から、阿部先生が出会われた長谷川良信先生の素顔をご紹介します。

阿部先生が、初めて良信先生にお会いになったのは、1950年中頃のことで、年齢的には阿部先生は30歳を過ぎた頃、長谷川先生は60歳代でした。阿部先生いわく、「その時にすでに長谷川良信という先生は、大器だという噂(うわさ)を聞いておりました。」

「実際に会った長谷川良信は、ほほえみを浮かべた温顔でありました。そして私のような若造をも温かく包み込むという大賓(たいひん)の風格を持った人でありました。」と言います。そして、阿部先生は「私はそこに深い印象を与えられました。人にやさしく自分に厳しい方でありました。」と、会われたときのことを話されました。

そして、学生たちに次のようにも話しました。

「認識する、その上で受容する(受け入れる)のです。友達と自分は違う、その違いだけでなく、共通するものをお互いの努力で見つけていく、つまり異質性を認識してそれを受容す

る。それが人間が共生をする方法なんです。

こんにちの福祉でいうノーマライゼーションとはその意味になるのです。これは、障がいを持つ人も持たない人も、一緒に住もうというのです。一緒に生活しながら共存をするのではないと、ノーマライゼーションではないのです。」そして、「これが長谷川良信が望んだ社会」であると1年生に伝えました。

(1997年5月8日の録音テープより)

～表紙の資料(写真)について～

吉田久一先生旧蔵資料

表紙写真の資料「吉田久一先生旧蔵資料」は、2021年、日本女子大学から淑徳大学アーカイブズへ移管になったばかりの図書や雑誌を中心とした資料となっています。

吉田先生は、ご自分の所蔵されていた図書や資料をいくつかの大学に寄贈されました。

1989年10月時点で、淑徳大学・大正大学・東京YMCA・東洋大学・日本社会事業大学・日本女子大学などに寄贈の予定を立てられていたことがわかるメモが、今回の淑徳大学に日本女子大学から移管になった図書の中に残されていました。

日本女子大学から移管になった図書・雑誌は、貧困関係・婦人問題・児童問題と吉田先生が括られたものにあたります。

この度移管になりました727冊は、2021年度に登録を済ませ、2012年に収蔵庫に配架になっており図書館のOPACで検索可能な「吉田文庫」の隣の書架に配架しました。今後も、淑徳大学アーカイブズの収蔵庫でお預かりし利用に供して参ります。

アーカイブズの活動紹介

アーカイブズ事務室では、資料整理を核に、アーカイブズを理解していただく入り口となるような情報発信も行っています。そのなかに1年に2冊刊行しているこの『アーカイブズ・ニュース』も含まれます。

コロナ禍にあって、展示室での展示開催にもひと工夫必要でしたが、2022年秋からの特別展示室での展示を準備中です。大念寺日鑑の刊行が一区切りつきましたので、これに合わせた展示を予定しております。

収蔵資料のうち、写真は未整理の点数が多く課題でした。昨年度より資料整理の専門の方にもアルバイトに入ってもらい、写真整理を急ピッチで進めています。順次公開を目指して作業を進めています。また資料整理についても課題がみつき、改善中です。



昨夏より、学生アルバイト2名も活躍中です。

資料調査

アーカイブズ叢書『浄土宗 関東十八檀林 大念寺日鑑』最終巻の第5巻を刊行しました(2022年2月刊行)。

今年度は、大念寺(茨城県稲敷市)で、日鑑以外の古文書調査も実施しています。



活動紹介

淑徳大学アーカイブズ・ボランティア

古文書ボランティアは、対面での再開の打合



せを11/12に行い、11/25から再開しました。古文書の会として、169

回~176回(11/25~3/18)を開催しました。古文書の読解(常福寺の史料)などの作業を進めています。月2回のペースで1号館3階の事務室内で感染予防に努めつつ、活動しています。

ボランティアの作業内容も相談しながら広がっています。

展示の動画のご案内

2022年度春の展示は、「学祖 長谷川良信先生の生涯」の動画配信を行いました。

社会事業史学会大会(2022年5/14・15)向けに、吉田久一展を動画で案内し、資料整理についての動画も配信しました。

学祖展示の見学の感想

長谷川良信先生の「やると決めたら、とことんやる」姿がかっこいいと思いました(S・N)。

先駆者として、淑徳大学を建学してくださったことに感謝したい(M・S)。

大学に入学するために長谷川良信先生のことを勉強したが、まだ知らないことがあって驚いた(R・Y)。

長谷川良信先生の生きた証がたくさんあって、社会福祉という分野に捧げていたのだと思いました(W・K)。

千藤 尚志さん(2期生)



第3回のインタビューは、2022年5月30日に、千藤 尚志さん(2期生)を淑徳大学千葉キャンパス1号館(丸館)にお招きしました。2階の同窓会サロンにて、インタビューをさせていただきました。優しい語り口で終始和やかな雰囲気は、ずっと続きました。今回は、千藤さんのお話の一部ですが抜粋してお届けします。

【長谷川良信先生との出会いと】

千藤さん：講堂だったかな。そこで接心会(せっしんえ)で、長谷川良信先生が話をされたときを覚えていますね。先生の顔はうろ覚えで覚えていますけど、話の中身は全然覚えていないんですよ。

大学に来たときには周りのほうもずっとあんなに家が今みたいに建ってなくてね。木々がずっと潤ってて、本当になんか、とても静かで。木の香りというか、そういううっそうとした木々の中に建っているところが印象に残っているんだね。当時、風がパーツと吹いていてね。

大巖寺に鐘撞があってね。寮生は結構楽しみだった。毎朝6時になると「かーん」って、交代でね。交代というか競争だよ。 (この後、寮生の風呂での合唱の話なども出ました)

～こうして、入学当初を思い出しながら始まったインタビューは、どのような方々に影響を受けたかということに話が広がります。

「私はね、途中から方向が変わるんです。」とおっしゃる千藤さん。

千藤さん：勝野時雄先生って方がいらっしたんです。この方の授業を受けたときにすごいなって思った。その人自身の生き方がそのまま出ているんだよ。

千藤さん：社会教育の世界に進んで、その中で自分が地域の人たちとの学びの場をいっぱい作って、みんなが、ひとりひとりが世の中のことや福祉のことを勉強して、そして地域をよりよくしていく。全国津々浦々にそういう動きがでてきたら、これは素晴らしいなあと思ったんだね。だから、社会教育の世界に私は方向転換しちゃった。

【龍澤祭の思い出】

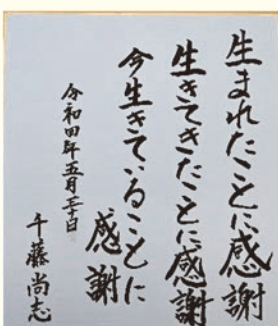
千藤さん：龍澤祭やるってことは、いろんな事業・企画・運営していくことじゃないですか。これは公民館活動にいっぱい生きちゃったんです。いろんな趣味・教養講座やったり、社会についての勉強をやったり、福祉についての講座をやったり、いろんな講座を企画をしていく。あるいは、二十歳の集いとかいろんな企画するじゃない。

企画する上では、龍澤祭も同じことなんですよ。結局、大学祭でどんな企画をやるのか。そういう企画事業をこのときにノウハウを覚えて

たわけ。そういうノウハウだけは勉強したから生かされた。だけど、何のためにこの事業をやるのかということの、理論的な詰めということが、これは弱かったですよ。何のためにやる、何故やるの？この問いかけが龍澤祭のときの自分も劣っていたんですよ。

【大学創立 50 周年淑徳大学 1~4 期生合同交流会】

この会は、2015 年 9 月 25 日にオークラ千葉ホテルで開催されました。1 期生の湯浅道夫さんが中心となって 2 年かけて準備されています。「シンポジウム」と「歌う集い」とが企画されました。こうした企画は、2 期生で話し合いを持ち、提案したということでした。シンポジウムは時間が足りない位だったと千藤さんは言います。「歌うつどい」では、千藤さんが得意のアコーディオンを、一力敏明さん(3 期生)がギターを弾かれ、皆で歌ったということです。



千差万別比べることはできません。私は私なりの困難があつて曲がりなりにも一歩ずつ頑張つて乗り越えてきたつもりです。困難はすべて「こやし」と自分に言い聞かせ、結果としてたくさんの心の宝物を得ることができました。そんな長い人生を経て、やっとこの年代になって得られた境地が「感謝」なのです(インタビュー



丸館前にて、記念撮影(卒業式)

一後にいただいておりますから)。

同席した学生アルバイトの飯田優衣さん芽衣さんは、学生生活で一番楽しかったことが、なんだろう、というのが聞きたかったことでした。その答えは、千藤さんが入っておられた寮生活のことでした。

【学生に向けて】「何にも知らないで授業に出るのではなく、自分がいろんなことに興味を持って問題意識を持つ、問題意識を持って先生にぶつかる、問いかける。」この力を持つことを千藤さんはすすめておられました。

～インタビューを終えて～

今回の千藤さんのインタビューは、学生時代のみならず、社会に出られてからのご苦労され、身に着けていかれた社会力のようなお話もございました。

千藤さんは、同窓会を再建した時の会長をおつとめでした。細やかな気配りをしていただき、インタビュー後も、千藤さんから連絡を頂戴し、話の補足をお聞かせいただきました。また、今回のインタビューは、千藤さんだけでなく、山崎弘隆さん・秋山茂樹さんにもご協力いただき、2 期生の結束の強さを想いました。千藤さんはじめ、皆様に感謝申し上げます。

(きき手 大鳥 聖子 協力 同窓会事務局)

アーカイブズ力^{りょく}をつける

その3

アーカイブズ機関の種類

「行政のアーカイブズ機関」 清水邦俊

今回は、アーカイブズ機関にはどのような種類があるか、まず「行政のアーカイブズ機関」についてご紹介します。アーカイブズ機関を紹介することが目的ですので、例にあげた文書が、必ずしも各アーカイブズ機関で保存していない場合もありますので、この点は予めお断りしておきます。

わかりやすく説明するために、人の一生に沿って説明いたします。

まず、子どもが生まれたら、役所へ出生届を出します。これによって、家族の戸籍簿に登録されます。

戸籍簿は、出生・婚姻・死亡の日にちや親族関係を表した帳簿です。現在は、150年間保存することになっています。人生の始まりと終点が記されています。

また、個人記録としては、転入や転出、各種税金、健康保険といったものも役所で管理されています。このような行政に関する個人の記録は、市町村の役所が管理しています。そして、一定期間ごとの選別を経た後に、市町村の公文書館で保存されていきます。

役所では、各種許認可や入札や施工、公式行事といった役所が扱う業務に関する文書も作成されています。これらも、個人記録と同じ過程を経たのち、公文書館で保存・公開されていきます。

要するに、市町村の公文書館には、その自治体で生活してきた人や、土地が辿ってきた

変遷や地域の歴史といった、人々の営みの記録が残されているといえるでしょう。日本国内では、市町村の公文書館は近年増えてきたとはいえ、まだ設置している自治体は少ないのが現状です。

* * * * *

つぎに、国や県の公文書館をあげておきます。

国立公文書館は、各省庁等が作成した文書を保存・公開しています。

同館は各省庁等の文書だけではなく、国の重要な意思決定に関わった国務大臣などの理念や行動を跡付ける記録も保管しています。たとえば、元内閣総理大臣の日記や演説草稿などです。こうした公務の情報を記録した個人記録は、公文書には該当しません。しかし、遺族や関係者から寄託を受けて保存しています。また、同館では江戸幕府が所蔵していた蔵書や国絵図などを「内閣文庫」という名称で保存・公開しています。

なお、国立公文書館は保存文書の増加によって書庫のスペースが不足したり、施設の老朽化が進んでいることから、国は現在、新国立公文書館の建設を進めています。

* * * * *

都道府県の公文書館は、市町村の公文書館と同様に近年設置が進んでいます。文書館・記録資料センターなどといった名称の違いや博物館・図書館等の関連する施設がアーカイブズ機関の機能を兼務するなどの違いはありますが、設置されていない県は、残り数県になってきました。

県の公文書館で保存する文書は、各種許認可や国の政策を反映した事業など、実に様々です。

この他に、各県の特徴的な事業に関する文

書もあります。たとえば、1964 年(昭和 39)に開催した第 18 回オリンピック競技大会(1964/東京)に関する文書のうち、全国各地を巡回した聖火リレーや、各地で行われたオリンピック関連のイベント等に関する文書は、全国各地の県の公文書館でも保存しています。東京都は、大会の会場地であったため、スタジアムや各種競技会場の建設に関する文書等、開催に関する公文書が東京都公文書館に保存されています。

昨年行われた第 32 回オリンピック競技大会(2020/東京)に関する文書も、将来的には同館で保存・公開することになるでしょう。

このように「行政のアーカイブズ機関」という枠は、国・都道府県・市町村の公文書館になります。国立公文書館のサイト内には、県・市町村・公立図書館・国公立大学で歴史公文書等を保存している機関を紹介した「ジャパン・アーカイブズ・ディスカバリー」(<https://www.archives.go.jp/jad/index.php>)というコーナーがありますので参照していただければと思います。

* * * * *

それでは、最後にアーカイブズ機関の機能について紹介しましょう。行政のアーカイブズや今後、ご紹介するアーカイブズにも共通しますが、アーカイブズの機能には親機関または親組織によって作成・受理された文書を保存・管理する「組織アーカイブズ」と、個人文書等を収集して保存・管理する「収集アーカイブズ」の二種類があります。この二つを有するアーカイブズを「トータルアーカイブズ」といいます。

前述の国立公文書館は、各省庁等の文書を保存する機能(組織アーカイブズ)と国務大臣等を勤めた人の個人文書を保存する機能(収集アーカイブズ)の両者を有しています。ここ

から国立公文書館は両機能を有したトータルアーカイブズであるといえます。

県や市町村のアーカイブズの中には、親機関が作成・受理した文書のみを保存・管理する組織アーカイブズもありますし、逆に個人文書などの地域に残る文書を収集している収集アーカイブズもあります。

今回は、小学校・中学校・高等学校・大学等の学校のアーカイブズについて紹介したいと思います。



自己紹介

認証アーキビスト。國學院大學卒業後、千葉県文書館や高知県の土佐山内家宝物資料館(現、高知城歴史博物館)にて古文書の整理に従事。2018 年から JICA 日系社会シニア協力隊に参画。ブラジルのサンパウロ市にあるサンパウロ人文科学研究所にて日本人移住者や日系人が残した個人資料の整理に携わる。その他、一般企業の資料の整理やコンサルティングも行っている。

現在、高知市内にあるオーテピア高知図書館にて歴史的文書の整理に従事している。

アーカイブズ事務室だより

事務室活動記録

(2021年10月～2022年3月)

○資料寄贈：アドミッションオフィス、地域連携室、同窓会事務室・校友会事務室・白井 孝氏(PKO 法人ちば・生実歴史調査会)・長谷川俊哉氏・古宇田亮修氏・細谷昭夫氏・湯浅道夫氏

○聞き取り協力：菊池政幸氏・菊池恵子氏(卒業生インタビュー 11/2)、荒木由起子氏・菅谷厚子氏・三上 浩氏・武田逸朗氏・西塚洋氏・長谷川匡俊氏

○資料閲覧・貸出：淑徳巣鴨中学高等学校 高野良一氏

○調査：崇福寺(11/1)、大念寺(11/6・7,12/5,3/27)、常福寺(3/14)、酒々井町(2/28)

○活動支援：市原特別支援学校つるまい風の丘分校産業現場実習(10/4～8)、淑徳巣鴨中学高等学校展示室瀬越丙協力(12/8・9) 大巖寺宝物殿展示・開館支援(10/9,10/19,11/9,11/20, 12/7, 12/18, 1/11, 1/22, 2/8, 2/19, 3/1, 3/19)、

○撮影：合格祈願護摩供養(12/14)、大巖寺で撮影(3/10)・生実城撮影(同)

○刊行物：『淑徳大学アーカイブズ・ニュース』24号(1/11)

以上、

〈ご協力のお願い〉

* 福祉関係の資料を寄贈される場合は、アーカイブズ事務室へご相談ください。

* コロナ流行に関するメール配信等は、各キャンパスより、情報提供をいただいておりますが、今しばらくご協力をお願いいたします。

* 各部門・部署で刊行された冊子などは、将来的に資料として、大学の年史を編纂するときをはじめ役立ちます。日ごろから寄贈にご協力いただいております。

* 廃棄の状況が生じた書類等については、アーカイブズ事務室へご相談ください。

〈編集後記〉

いつもアーカイブズ事務室にご協力いただきありがとうございます。

皆様におかれましては、ご味読いただけましたでしょうか。今号は編集の過程で、新たに資料を寄贈して頂くなど、さらなる展開がございました。このことは、万事が時間的な、心の余裕があることで叶う側面もあるように、アーカイブズの日頃の業務を少しずつ工夫していくことともリンクしていました。

アーカイブズを側に置いていただくことは、将来の組織やさらには社会の有り様の助けになっていきます。引き続きご協力のほどお願いいたします。 (大寫 聖子)

～淑徳大学アーカイブズ～

〒260-8701

千葉市中央区大巖寺町 200 1号館 3階

TEL 043(265)7526 <直通>

✉アドレス archives@soc.shukutoku.ac.jp

